

様式第3号（第13条関係）

会議録

| | | |
|---------------|---|--|
| 会議の名称 | 令和6年度第2回朝霞市男女平等推進審議会 | |
| 開催日時 | 令和6年7月25日（木） 午後2時～午後3時15分 | |
| 開催場所 | ゆめばれす2階 201会議室 | |
| 出席者及び欠席者の職・氏名 | <p>出席者 委員9名 星名委員 金井委員 金子委員 内山委員 久慈委員 栗山委員 土佐委員 川村委員 島根委員</p> <p>事務局4名 西内人権庶務課長 石井人権庶務課長補佐兼男女平等推進係長兼女性センター所長 熊谷主任 吉田主任</p> <p>欠席者 委員4名 小島委員 渡辺委員 岩上委員 兼本委員</p> | |
| 議題 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3次朝霞市男女平等推進行動計画策定に向けた小学生・中学生・高校生アンケートの内容について ・その他 | |
| 会議資料 | <p>次第</p> <p>資料1 朝霞市男女平等に関する小生意識調査（案）</p> <p>資料2 朝霞市男女平等に関する中生意識調査（案）</p> <p>資料3 朝霞市男女平等に関する高生意識調査（案）</p> | |
| 会議録の作成方針 | <input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 要点記録 | |
| | <input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年） | |
| | 電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月 |
| | 会議録の確認方法 会長・副会長による確認 | |
| 傍聴者の数 | 傍聴者0人 | |
| その他の必要事項 | | |

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎ 開会

- ・出席委員数報告
- ・会議公開及び傍聴希望者の確認
- ・配付資料の確認

◎ 議事1 第3次朝霞市男女平等推進行動計画策定に向けた小学生・中学生・高校生アンケートの内容について

○事務局(熊谷)

小学生・中学生・高意思識調査についてご説明いたします。

今回、第3次朝霞市男女平等推進行動計画の策定にあたり、この小、中、高の意識調査を追加した経緯ですが、若年層の男女平等の意識というものが確立されていく過程は、家庭生活や学校生活等の中で培われていくものと考えております。その中で、現在の若年層が男女平等についてどう捉えているのかという実態を把握し、年代とともにどう変化してくのかという経年変化も併せてみていく必要があるのではないかと考え、調査を行うものとなりました。また、今年4月から施行となっております、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」女性支援新法というものですが、こちらの中にも、困難を抱える若年層への支援が含まれており、今回の行動計画には新法の基本計画も含めるものとしておりますので、実際の若年層がどのような悩みを抱えているのか、相談できる場所があるのか、また、性についての情報やデートDVに関する捉え方などの実態調査を行いまして、計画策定の基礎的資料とするため実施するものとしております。

対象者ですが、市内小学6年生 1,273 人、中学3年生 1,087 人、市内県立高校の高校3年生 720 人を対象にアンケートを実施する予定です。回答方法はすべて Web 方式となっております。意識調査の実施予定時期は、9月下旬から10月上旬までの予定としております。

アンケート内容についてご説明いたします。小、中、高アンケートの質問項目は15問程度を上限と考えています。

資料1、小学生意識調査をご覧ください。小学生は、主に男女平等についての質問をメインとしております。問2のところでは、どの世代にも共通の質問として盛り込んでいる、男女平等に対する意識を聞いております。問3～問6までは、アンコンコンシャス・バイアスや男女の役割意識等に絡めた質問や、またその影響を与えた人が誰なのかという質問となっております。問7は、言葉の周知状況を尋ねる質問で、中学生、高校生ともに同じ内容となっており、年代別の周知状況を比べられるようにしております。問8以降は、新法の困難女性の法律に絡めた質問としており、問8はリプロダクティブ・ヘルス/ライツ関連の質問としております。問9～12は悩みの実態把握や相談できる人や場所の有無、相談先の周知状況や工夫をたずねるものとなっております。資料1は以上です。

資料2、中学生意識調査をご覧ください。中学3年生は、問8までは小学生と内容は同じとなっております。問9から問11までは、デートDVに関連した質問を入れております。また、問12～15は小学生と同内容となっております。資料2は以上です。

資料3の高校生意識調査をご覧ください。問9までは中学生と同内容となっております。高校生では問10でデートDVに関する内容をどう捉えているか、また、行為の経験について質問しています。問11～14までは中学生と同内容となっております。説明は以上です。

○栗山議長

ただいま事務局より、内容の趣旨、及び資料のそれぞれのご説明が終わりました。ここで、内容につきまして忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。何かご質問、遠慮なく言って

ください。

○内山委員

人数をお聞きしてもいいですか。

○事務局(熊谷)

人数ですけれども、市内の小学6年生1273人、中学3年生1087人、高校3年生720人です。

○内山委員

はい、ありがとうございます。まず、表書きのところが、小学生の意識調査は上から3行目、この調査は、朝霞市の小学6年生の皆さんが入っていますが、中学3年生と高校生に入れてないのは、何か意図的に学年を外しているのですか。ネットだけでやるんですよね？ペーパーはやらない？

○事務局(熊谷)

この表紙だけ配らせていただいて、2次元コードを読み取っていただいて、回答していただく流れで今のところは考えています。

○内山委員

であれば、書いておいた方が、間違えて中学校2年生とか高校1年生のところに行っちゃわないように。小学生、中学生、高校生別々の二次元コードを作るのであれば、この表書きのところに小学生だけ小学校6年生の皆さんがって書いてあったので、資料2の方は中学校3年生の皆さんのご意見にして、資料3は高校3年生の皆さんのご意見って書く方が、間違った学年の方が回答されないかなと思いました。

あとは何か質問の仕方なんですけど、ありますかって聞いて、小学生の質問の間3の②は、学校で男子の方が向いている女子の方が向いていると思う係はありますかって聞いているから、だったら回答はあると思う。2番がどちらかと言えばあると思う。3番はどちらかと言えばあると思わない。4番がない。あるで聞いてれば、きっとあるで回答する。思うか思わないで聞いてれば、思うか思わないで回答で、ありなしで聞いているのであれば、基本的にはあるかないかで回答する方が質問と回答が綺麗に繋がるかなと。いつも卒論のアンケートとかを作るときはそういうとちよっとこだわったりしているんですが。

続けて小学生の間7番。問の6番は思いますかって聞いているから、多分回答がそう思うとそう思わないでいいと思うんですね。問7の②番が、ひらがなを振ってくださっているんですけど、夫婦や離婚した元の夫婦、結婚はしてないが、一緒の後がもう1回漢字で一緒になっているので、はい。

8番のパパ活なんですけど、これ主語をわざと入れてないんですかね。経済的にも余裕のある男性と一緒に時間を過ごし、対価として金銭を得る行為、女性が対象なのか、これ男性も対象にするのか。女性が、金銭的に余裕のある男性と一緒にいることを一般的にパパ活って言うんですけど、逆にママ活っていうのも最近あるらしいですが。これは男の子が見たときに、男女両方とも、このパパ活の定義をどうするかっていうので、例えば主語の最初に、女性が、経済的に余裕のある男性と一緒に時間を過ごして対価として金銭を得る活動なのか、主語がないかなと思って、どういうふうにするのか。このパパ活の定義そのものが、一般的にどうなっているのかなっていうのと、問9が、あなたは悩み事とか心配事がありますかって聞いていたら、あるかないで答えると思うので、質問の仕方をあなたの悩みや心配事は何ですかかって聞くとこの回答に繋がるかなと。ありますかって聞くと多分最初にあるかないかを聞いて、それは何ですかかって、次のステップに行かなきゃいけないので、それやると面倒くさいので、一気に一つの質問にすると、あなたの悩み事や心配事は何ですかにして、親のことを、あと2番はあまりあのアンケートってかっこを使わない方がいいと思うので、2番は親以外の家族のことってしちやえば綺麗かなと。親のこと、親以外の家族のこと、先生の事って。同じくそうすると10番も、あなたは悩み事や心配事があるとき、相談する人は誰ですか。いますかって聞くと、いるかないで答

えることになるので、誰ですかって聞くと誰かって回答してくれると思うし、11 番も同じくあなたは次の相談窓口で知っているものはどれですかって聞くといいのかなと思って見ていました。

○栗山議長

事務局お願いします。

○事務局(石井)

一番最初の対象の関係ですね、こちらちょっとあの対象者をどうするか、ちょっと若干迷ったところがありまして、それでちょっと漏れちゃったところもありまして、今ご指摘いただいて、学年入れた方がいいとこちらも思いましたので、その方向で改めてそのようにさせていただきたいと思います。

あと、今質問番号具体的にいくつかご指摘いただきまして、思うとあるなしの聞き方ですね、それについても、おっしゃる通りだと思いますので、そのように調整させていただきたいと思います。

小学生の間7のパパ活の部分ですね、困難女性の法律の関係があって、今回入れさせていただいたっていう経緯があったんですが、ここをパパ活ママ活という言葉もありましたので、そのパパ活ママ活というのを併記して書くか、そのあたりはちょっと検討して、もしこのままパパ活でいくようであればおっしゃられたようにあの主語があった方がとは思っていますので、そのあたりのご指摘を踏まえて改めて検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。小学生 6 年生で平等って何の平等なのという、ごく自然な疑問が出てくるかなというふうに思うんですね。だから男女の平等というものが、小学生と高校生という場合には開きがあるかなと。何を平等っていうのかなということですね。小中高の3つ例題を見るから、余計それを感じるんですけども。その辺、1つ質問じゃないんですけども、皆さんのお考えもそういうものをちょっと取り入れていただいて、何か遠慮なく。こういうアンケートは初めてですよ。小学校、中学校、高校対象として、重要なことだと思うんですよ。子どもの頃からそういうことを意識してもらいたいという。非常に素晴らしいアンケートだと思うんですけども、せっかく作るのであれば、今、内山委員さんがおっしゃったように、わかりやすいように簡単に回答できるような内容の方がいいかなと私も思っております。その辺、今の内山委員さんの質問を聞いてどうでしょうか、皆さん。どうですか、金井委員さん。

○金井委員

私も会長の話を聞いて、男女平等の考え方なんですけども、こちらの 33 ページの計画にあるように、地位の平等っていうのが入っているんですけども、小学生の方も問 2 番、男女平等に扱われていると思いますかっていうこの言い方も、平等だと思いますかとか、そういう方が小学生には馴染むし、地位だけではない、思想とか考え方が男女平等に伝えられる場があるかって環境調整もあるので、地位だけではないかなって思うと、その表現の仕方をちょっと変えていただけるとわかりやすいのかなと思いました。

中学生の方も同じく扱われていると思いますかになっちゃうと、だと思いませんかの方がすんなり入るんじゃないかなっていうところと、高校生の場合も、地位は平等ですかって書いてあるので、こちらの 33 ページの学校教育の中で男女の地位は平等であるっていう計画上の意識調査にも入っているんで、私は何か前に 1 回ちょっとアンケート調査をしたのかな、それがまた同じようにやるのかなってちょっと勘違いしちゃったので、その辺をちょっと上手く、地位ではない言い方があればいいかなっていうのはちょっと思っています。あと内山さんの話ですと、3 番の、児童会長の後の係とかの話についても、ありますかとなると思います。それは何がそう思っているのかなっていう、そこまで聞く、どこまでが目的なのか、意識の調査っていうのを聞きたい、市が確認したいものは何なのかによって、じゃあ何の係が男女平等じゃないかっていうところまで聞いた方がいいのか、ちょっと精査が必要かなってちょっと思ったところでございます。

あと、小学生の方の問 7 番のあと、4 番の性暴力、というところとパパ活もそうなんですけども、小学 6 年生でこの表現でちょっと理解できる人たちだけかどうかっていうところの表現の仕方はちょっとどうなのかなっていうのは考えています。一応、小学生の子どもを持つ職員に聞いてみたら、幼い子はわからないかなっていうところもあるので、それをちょっと加味した内容で書かれるといいのかなっていうところと、あとパパ活の意味のところに、対価として金銭を得る行為っていう、それは辞書通りはこう書いてあったんですけども、要は見返りというか、そういうのをもらったというそういうわかりやすい表現っていうのがあるといいのかなってちょっと思っています。

問9についても、悩み事は何ですかって言ったときに、悩みや心配事があるときにSNSに書き込んだりとか、ゲームの時間とか、今の子どもさんが困っていることが何かちょっと入るといいのかなっていうのは私の方で考えたところでございます。以上です。

○栗山議長

事務局をお願いします。

○事務局(石井)

はい、ご意見ありがとうございます。基本的には、今伺った内容、その通りだなというところなので、一応先ほど小学生にわかるのかっていうお話がちょっとありまして、これを作るにあたってですね、市役所の教育委員会の方の先生と相談をさせてもらって、なんとなくこのぐらいだったら 6 年生になると分かるかなと伺った経緯があります。ただ身近な声も聞いていただいてというご意見だったので改めてまたそのあたりは踏まえて、精査させていただければと思います。ありがとうございます。

○栗山議長

具体的な内容は、今の意見聞いて、また検討していただくということで結構だと思います。

○金子委員

小学校の分ですけど、問 9 のことですけども、心配事は何ですかって、内山委員さんおっしゃったんですけども、心配事が何ですかっていうことになったら、心配事を一生懸命考えなきゃならないけども、心配事がありますかって書けば優しい文章だから、心配事がなければつけなくてよろしいわけですね。だから、これやはり、心配事がありますかの方がね、優しく受け止められるんですね。心配事は何ですかは、ちょっときつく感じて、あの心配事書かなきゃいけないのかなって感じてしまうんですね。ですからあと問3の方もそうですけども、あると思うとかっていうよりも、そう思うの方が優しい文章かなって私はこれ全て感じました。

○栗山議長

ありがとうございます。本日小島委員さん欠席なんですけど、実際に男女平等に関する活動をされている星名さんにお聞きしたいんですが、どのような範囲で活動されているのか、どういう形か皆さんにお話いただければ。

○星名委員

私と小島さんはですね、朝霞子育てネットワークという団体を運営してましてそこは主に小学生まで、でもいらっしゃるのはやっぱり未就学児の親子が対象なので、質問が小学生以上なので、ちょっと私の子どものことを思いながら拝見させていただいて、内容としてはすごくいいアンケートだなっていうのを率直に感じました。

それと、気になったのは二次元コードを読むということなので、多分小学生で、うちの娘も小学生のときにはスマホを持っていなかったから、回答できるとしたらやっぱり親御さんが関わるとい意味で、それもいいなっていうのを感じたりしました。

小学 6 年生であれば、結構もう3, 4年生のあたりで今、性の話って小学校で頻繁にしているんですよ。この審議委員になったときにもお話したんですけども、大人が思っている以上に子どもはまかせています。なので、もうパパ活の話だったり 4 番の性暴力の話だったりっていうのは、もう全然率直に問にしていいと思っております。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。

○内山委員

ちょっと質問です。今、星名委員が言ってくださったように、このアンケートはお家に持って帰ってもらうのですか、それとも、1人1台タブレットが配られているので、その場で授業中にやる、どっちでしょうか。今、子どもたち1人1台タブレットを持っているので、QRコードさえあればその場で読み込んだり、先生がWEB配信して、その場でネットも繋がっているはずなので、例えば特活の時間とかホームルームの時間等でその場で学校で、お家に持ち帰ってやるのではないんじゃないかと私は思っていたのですが。

○栗山議長

事務局をお願いします。

○事務局(石井)

それぞれのアンケートの1枚目にあるこの依頼文ですね、この二次元コードの書いてある依頼文を学校にまずお持ちしまして、こちらとしてはですね、できれば授業等、学校の中で一齐に、回答率を上げるという意味でもですね、お願いしたいというふうに依頼をしたいと思っています。ただちょっと学校の授業数の兼ね合い等ありますので、ちょっと学校によって、帰って家で自分たちでやってくれっていうところもちょっとあるのかなという、今、統一がなかなか難しいところです。依頼としては、学校の授業でお願いしたいということで依頼したいと思っております。

○内山委員

道徳の時間とかなんか使ってやってもらったり、特活の時間なんかでやってもらおうと、すごく流れとしていいかなと思ったので。多分おっしゃってくださったようにお家に持って帰ってやってもらおうと回答率が下がると思います。あと保護者の方から、質問の内容によっては保護者の方からあれってこれってっていうのが、来る可能性もあると思うので、事前にやっぱり学校からは、特別活動を使ってこういうアンケートをやりますっていうのは伝えていただいた上でやらないと、ちょっと内容が性的のことにすると敏感になられているご家庭はやっぱりあると思うので。教育委員会さんとかと打ち合わせの上でだと思って。

すいません、問7について、今いくつか議論していただいていると思うんですが、これ逆に知っているか知らないかを聞くので、小学校6年生でこの言葉知りませんっていうのがわかるのもいいと思うので、これでいいのかなと、あの言葉のことは小学校6年生で知っている率が80%だけど、この言葉は、小学校6年生だと知っている率は20%しかいないとか、そういう意味で聞いているのかなと思って、もし入れるとしたらここに例えばプライベートゾーンという言葉で最近学校なんかで使うので、プライベートゾーンって水着で隠れる場所とあと口をプライベートゾーンって言うんですけど、そこは人に見せても見せられても触っても触らせてもいけないっていうのを今、幼稚園とかの教育から入れているので、やはり性暴力、最終的にそのプライベートゾーン大人になってから、あそこ触られたのって実は性暴力だったんじゃないかみたいなのが見えてくるので、もしかして、何かこの言葉を使う原本になったものがあるんだと思うんですが、追加できるのであればプライベートゾーンという言葉を知っているかっていうのがあるといいのかなと思います。あと9番について、金子副会長もおっしゃってくださったんですが、あなたの悩み事や相談、心配事は何ですか、11番の特になしを一番前に持ってきて、はい、回答の1番を特になしにしてしまえば、ぱっと見てこの質問に対して特になし人は1番で丸つけて終わってしまうので、そういうやり方もあるかなとは思いますが。確かに何ですかって聞くと、なんだろうって考えちゃうかもしれないけど、回答欄を見たら1番に特になしがあれば、もうそこに丸をつければ終わりになるので。

並び替えも、予備調査をやって、多い順番からこういうのって並べるんですよ、一般的に。「特になし」を1番最初に持ってくるというやり方もあるんじゃないかなと思ってお聞きしてみました。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。せっかくでございますので島根委員、お願いします。

○島根委員

文章をいかに簡潔にわかりやすくするかっていうのもね、アンケートの書きやすさの大きなポイントなので、いろいろまたちょっと吟味していただけたらなと思います。

○栗山議長

ありがとうございます。川村委員さんどうですか。

○川村委員

今回、初めての試みということですのですごくいいと思います。家に、中学生と高校生といるんですけど、うちの子は、家庭でどんなふう意識を持っているのかなって、すごく個人的に興味があります。やっぱり、うちに持って来られても、多分うちの息子はやらないと思うので、学校でぜひやってもらえたら助かると思いました。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。せっかくですので、順番に、土佐委員さん。

○土佐委員

アンケートをいただきましたときに、とてもよくできたアンケートだとは思いました。ただ、私の孫はちょうど今年中 1 になったんですが、思い合わせて、実際どこまでわかるのかなって思いました。息子夫婦を見てまして、対等って言うかそういうのを見てね、男だ女だとかっていうのはあまり本人は感じていないんで、皆さんどこも両方とも働いているご家庭が多いので、だいたいフィフティーフィフティーの関係の方たちが多いのかなと思うんですね。そういう中で、親次第で男が女がっていうのは、子どもに影響する場合もあるのかなとは思いました。それともう1つは、問7、これに関しては、本当どうなんだろうって思うこともあります。たださっきおっしゃったように、知らないが多ければ、それはそれでいいのかなって、質問によっては多い少ないで出てくるかと思うんですが、でもアンケートとしては、いろいろ皆さんからご意見があって、いろいろ訂正するところはあるにしても、よくできてるアンケートだと思います。以上です。

○栗山議長

久慈委員さんどうですか。

○久慈委員

これをいただいたときに、とてもよくできているなって感心したんですけど、内山さんの話を聞いてなるほどなって思いました。金井さんのお話もそうだなって思いました。私は、男女は平等ですけども、役割が違うって思っているんですよ。だから、そこら辺のことがどこかに反映されてるといいのかなっていうふうにちょっと思っているところです。あとはとてもよくできて、感心しています。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。他にどんなことでも結構でございますので、金井委員さんどうぞ。

○金井委員

問の10の、悩みがあったときに相談できる人はいますかっていう項目で、いろいろと書いてあるんですが、最後のページに日頃から悩んだりしたら、学校の先生やスクールカウンセラーっていう形で書いてあるので、これをどこまで強調したいのかっていうことになるんですけど、学校の先生でひと区切り、全部を丸めて、スクールカウンセラーも入れるのか、ちょっとその辺が私も整合性をとった方がいいのかそれとも、大きな意味で学校の先生で、最後はちゃんとスクールカウンセラーがいるよっていうことをお伝えしたいから入れているのか、その辺だけがちょっとどうなのかなって、ちょっと質問したいなと思っていたところです。

○栗山議長

事務局、お答えしていただけますか。

○事務局(石井)

はい、こちらについて、教育委員会の方とちょっと調整させてもらって、どういう表現がいいかということでやらせていただければと思います。ありがとうございます。

○栗山議長

ありがとうございます。先ほどアンケートを取るタイミングと時間帯といいますか、家に持って帰ってアンケートする場合と、何かの時間を利用して学校内でアンケートを出すとかで、全然回答率が違ってくると思うんです。これはやはり教育委員会が後押ししていただかないと、なかなか協力してくれないのが現状なんです。どういう形でこのアンケートをお願いするのですか、それによって、だいぶ違ってくるんじゃないかと思うんです。

うちの審議会としてはですね、どのタイミングでやるかっていうのは、まだ決めてないような感じなんですけれども、その辺はどう考えてますかね。アンケートの取り方として。

○事務局(西内)

はい、先ほどちょっと説明の中では、教育委員会通じて学校の方をお願いするっていうことだったんですけど、今のご意見を踏まえまして、なるべく授業の中で取り扱っていただきたい、特に小学生はですかね。依頼はしていきたいと思っています。

○栗山議長

要するに、教育委員会に最終的にはお願いするような形ですよ。学校内のことですからね。その辺、どの程度まで進んでいるんですかね。

○事務局(石井)

はい、具体的な依頼はですね、毎月教育委員会の方で校長会教頭会というのを月の初めにやっているんですけども、今回、9月の実施を予定しているので、9月の校長会にですね、我々も出席させてもらいまして、そこでまず校長先生の方にご説明をしてという予定でいます。下話として、そこを束ねている指導課というのが市役所の中にあるんですが、一応指導課の先生には実施したいということで下話はしてあるような状況です。以上です。

○栗山議長

いつ頃やる予定なんですか。

○事務局(熊谷)

2学期始まってからですね。夏休み明けてからやらせていただこうと思っています。

○栗山議長

それは、教育委員会と調整はしているわけですね。それで、原則的に先ほど言った授業の枠の中でやるのか、あるいは自宅に持ってってやるのかそれはまだ結論は出てないんですか。

○事務局(石井)

はい、そうですね、その具体的な回答はないですね。指導課と話している段階ですと、ちょっと学校で一律でやるっていうのは難しいんじゃないかなっていうような、現場の事情もあるのでという反応というところですね。

○栗山議長

今の件で委員さんどうですかね。金子委員。

○金子委員

私、青少年市民会議で毎年作文を集めたり、標語を集めてるんですね。でも先生方もやりきれないっておっしゃっているんですね。ですから本当にもう作文なんかでも、たくさん出してくださいってところと、本当に二、三名のところがいるんです。先生方がお手上げのところが多いそうなんです。ですから、これはもう校長会でもお願いしていただけても、やはり校長先生たちの気持ちで学校でやられても持たしてあげても私はいいいと思うんですよ。これすばらしく出来上がってますから、もしお家に持って行ってわからないのはちょっと親御さんが見ても、親御さんは自分のお子さんをよく知ってますから、あんたこれじゃないのとかって言って、変な答えはさせないと思うんですよ。だから、校長先生のご意思で、学校でも、持たせてあげても、私はどちらでもよろしいのかなと思ってます。

○栗山議長

ありがとうございます。島根委員。

○島根委員

親御さんというね、フィルターがない方が、うまく言えないけど望ましいんじゃないでしょうかね、皆さんどうでしょうか。アンケートを取るにあたって、対象者となったその生徒さんが書いた方が、的確というかね、答えが出るんじゃないでしょうか。だから、親御さんは介入しない方が、なんかよろしいのかなと思うんですけども、皆さんのご意見はどうでしょうか。

○栗山議長

他にお考えありましたら。川村委員、どうですか。

○川村委員

小学生までは、まだやりなさいって言われたら、やるんですよ。親の言うことをまだ多少聞きますし、先生の指示にも従うので、お家に持って帰ってもやると思うんです。でも中学高校生になると、自分の意思ではもうやらないし、部活に塾にと忙しいので、やる時間も、そこに割く時間もなかなか取れないかと思うので、小学生はご自宅に持って帰ってやってもいいかもしれませんが、中学と高校生はできれば学校でやることを私はおすすめしたいと思います。

親が介入するかどうかは、そうですね、中学高校は、明らかにもちろん自分でやった方がいいんですけど、小学生はどうなんでしょうね、6年生ともなると、もうここに書いてる内容を理解できない子もいないのではないかと思うんですけども。ただ、二次元コードを読み取るってことで、ご自宅に持ち帰った場合には、タブレットが手元があればできるかもしれないんですけど、ない場合はやっぱり親のを借りるしかないっていう、環境に合わせて、まだ持っていない子もいるので、その家庭家庭になるのかなって思いますけれどね。わからなくて、どういう意味？ってお母さんに聞いたりもするかもしれないかなと思うんですけども。

○栗山議長

ありがとうございます。アンケートっていうのは、やっぱり少しでも多い方がいいんじゃないかと思うんですよ。だからそのためには、アンケートの配布をお願いする方法をよく考えた方がいいんじゃないかと。中身はよくても、皆さんが答えてくれなければ意味がないわけで。私は学校でやるのが一番いいかなと。家に持って帰りますと、本当の子どもの気持ちをそのままアンケートに表せるかという、ちょっと疑問を持つこともあるんですよ。そのためには、授業を多少つぶさない、そういう時間も取らなきゃなんないわけですよ。でも学校は非常に今、忙しいんです。

内容がよくできたとしても、回答してもらわないと意味がないわけですよ。課としては何パーセントくらいの回収率があればいいと思っていますか？

○事務局(西内)

同じように、小中学生にアンケート調査したのが、市の政策企画課でやったことが昨年度あって、回収率が44%ぐらいでした。授業中にやったのか持ち帰ってやったのかとか聞いてないんですけど、44%ぐらいだったということで、その程度は目指したいなというふうには思ってますけれども、今皆さんのご意見や会長のご意見もありましたように、回収率をやはり上げたいので、できるだけ回収していただけるようなやり方は、各学校、教育委員会とは調整していきたいというふうには思います。

○栗山議長

土佐委員。

○土佐委員

小学生の場合、親が関与するしない、本当の実態を知ろうとしたら親がいない方がいいのではないかな。学校なら学校でやって、わかるわからない知ってる知らない、それが正直な回答だと思うんですよ。ここまではわかる、理解している。でもこれは知らない子が多いなど。それともう1つは、最後の方ですけど、相談するときに学校の先生やスクールカウンセラー、その他

信用できる大人の人って入ってますけど、これは保健室の先生とかは入らないんですか？

○内山委員

元養護教諭の私から。学校の先生に一応入るんですけど、どこまでをこの学校の先生とするのか、担任の先生を指しているのか、養護教諭なのか、本来スクールカウンセラーは学校の先生ではないので、枠組みとしてはどういうふうによこの書き方を書いたのかなと思います。

○土佐委員

養護を入れた方がわかりやすい。

○内山委員

養護教諭は、学校の先生って括りにきつとされてるのかなと思って聞いてたんですが。

○土佐委員

保健室ひっくるめてなのかもしれませんけど、逆に保健室を入れた方がわかりやすいのかなと思いますけど。

○栗山議長

内山委員さん、その辺どうですかね、配布方法っていう取り方。

○内山委員

取り方の方は、逆に、これ1つのアンケート何分ぐらい想定ですか。10分ぐらい。表書きの最初のところに、このアンケートは全部で何問で何分ぐらいかかりますってやっぱり入れる方がいいと思うんですね。逆に、おうちに持って帰る学校と持って帰らない学校があることのほうが問題だと思うので、学校でやってくださいと、できないところはいいですって言っちゃうほうがきれいな気はします。じゃないと、おうちに持ち帰って保護者とやった学校と、学校で子どもたちだけの意見でやった学校が、入り交じる方が問題だと思うので。違うと思います。また、家に持って帰ると保護者の方がね、だってお父さんいつもこうじゃないとかお母さんこうじゃないとか、そういうのがおうちで聞いてやると出るような気がするので、であればこっちで指示してしまって、多分学校の方から言うと、まず1番最初に教育委員会を通すというか、それから校長に言ってもらって校長が持ってきたものは基本学校はやりますので、その指示の時点で校長先生に学校でやってくださいと。難しいですって言った学校があれば、じゃあ結構ですって言っていいんじゃないでしょうか。その方が実態がわかると思います。

○金子委員

よろしいですか。おうちでやるのはあまりよくないという委員さんの言うこともわかるんですけども、学校の側としても忙しいってさっきお話ししましたけども、アンケートをご家庭に持たせるんだったら、アンケートをお受けしますと、学校でやるんだたらちょっと学校時間がないからお受けできませんっていう回答もね、なきにしもあらずなんですね。その場合はもう学校におまかせした方がよろしいかと私は思っています。

○栗山議長

学校に関することは教育委員会で、学校のことは学校長が握っていますので、どの程度協力を得られるのかなというところですよ。せっきく皆さんが中身をいろいろ考えて作成したものが、アンケートの場合はある程度回収率がよくないと意味がないんですよ。

教育委員会側と、人権庶務課の皆さんとの調整が重要になってくるかなと思ってますよね。はい、どうぞ星名委員。

○星名委員

回答場所が、どこがいいかっていう議論なんですけれども、1番最初のアンケートの冒頭に、自宅で回答しているか、学校で回答しているかっていう、もうそこを既にアンケートにしてしまって、自宅に帰ったら親御さんの意見が入るっていう、そのフィルターを外してもらいたいなと思いました。もう6年生ですから、自分でやれる方もいると思いますし、親御さんが入る方もいると思うんですけど、絶対変わる絶対入るっていうのはやっぱり大人の意見であって、そこはなんかもうゼロベースで考えてもらいたいなって感じました。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。その辺のことについて何かご質問ありましたら。

○内山委員

あの次回の校長会のときに、ちょっと聞いてみたらいいんじゃないでしょうかね。どのくらい学校でやれそうですかって。大勢の校長が、これちょっと授業内で難しいかなっておっしゃるんだったら、もうご自宅でも結構ですにしてもいいし、学校でやるよってしてくれる校長が多そうだったら、それでもいいのかなというふうに、ちょっと校長先生とのやりとりの中で、どんな感じかをちょっと探っていただくのがいいのかなって思いました。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。何か中身よりも、その辺が難しい壁があるかなという感じがいたします。中身については、後日でも結構ですので、事務局の方に遠慮なく意見を言っていただければよろしいかなというふうに思います。8月ぐらいまでですか？

○事務局(吉田)

8月中旬ぐらいまででお願いします。

○栗山議長

なるべく早めに、遠慮なく意見を言っていただきたいというふうに思っております。

それでは第1号議案につきましては、中身についてアンケートの取り方について、活発なご意見本当にありがとうございます。こういう形でのアンケートは初めてでございますので、せっかくやるのであれば回収をよくするためにはですね、どのようにしたらいいかということですね事務局の方も考えていただいて、極力成果が上がるよう期待したいなというふうに思っております。

◎議事2 その他について

○栗山議長

それでは第2号議案その他について、事務局から何かありましたらお願いいたします。

○事務局(吉田)

ではその他につきまして、3点ご連絡致します。

1点目ですが、先日、第三次朝霞市男女平等推進行動計画策定業務委託業者が決定いたしました。公益財団法人埼玉りそな産業経済振興財団と契約いたしました。

今後、計画策定に向けまして、審議会への出席もあるかと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

2点目としまして、8月の1日木曜日から6日の火曜日までと、8月の24、25日、土日になりますが、中央公民館2階にて女性センターパネル展を開催いたします。

8月24、25日は、中央公民館サマーフェスティバルと合わせての開催となっております。また24日には、みんな違ってみんな大好きと題しまして、女性センター登録団体のル・スリールさんによる、本の読み聞かせと楽しいクイズも開催されますので、皆様ぜひ足をお運びください。

最後に以前の会議で審議いただきました、市民意識調査事業所アンケートですが、8月下旬ごろ発送し、9月中旬までの回答期間で実施となる予定です。皆様への周知と、届きました際にはご協力をお願いいたします。なお、次回の審議会ですが、市民意識調査等のアンケートの結果につきまして、11月頃の開催を予定しております。事務局からは以上です。

○事務局(西内)

すいません、事務連絡の他にですね、ちょっと私の方から皆さんにお伺いしたいことがござ

いまして、今日回答ではなくても結構なんですけれども、女性センターという朝霞市女性センター、愛称それいゆぶらぎって今言ってるんですけれども、女性センターという名称についてですね、ちょっとご意見がありました。外部評価委員会という市の政策について公募市民の方ですとか、市のいろんな団体の方からご意見をいただく会議があるんですけれども、そこでですね、今女性センターという名称ですと、男性側から女性が守ってもらってるっていう印象があるということで、男女平等、男女共同参画と言いながら、女性のための施設っていうふうな印象があるということで、今後名称を変更していく計画はないのか、考えはないのかというご意見をいただきました。私の方からそのときの回答では、設立当初にまだ女性センターって名付けたいきさつ、強い思いがあったということで聞いてますので、今すぐに変えるという考えはないんですけれども、確かに男女共同参画、男女平等ですとか、あと今、性の多様性というところも扱ってますので、いろんな我々が携わっている業務については、1つの転換点に来ているのではないかというふうにお話をさせていただきました。今後、第3次の計画策定に向けて、今年度と来年度、皆さんにもご審議いただくところなんですけれども、センターの名称についてもですね、1つの転換点ではないかなというふうに思ってるところでございますので、ちょっと今後ですね、皆様のご意見も、その点についてのご意見を伺いたいというふうに考えておりますので、また次回の会議のときにですね、11月にはなってしまうんですけれども、またご意見をお伺いできればというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。私からは以上です。

○金子委員

よろしいですか。富岡市長さんが、選挙をやられてるときに、女性センターを作るっていうのが公約だったんですね。富岡市長さんが当選してから、女性センターになったもんですから、そのことも市長さんにお話された方がよろしいかなと思ってます。

○事務局(西内)

そういういきさつもございますので、もちろん市内部の、調整も必要かとは思いますが、はい。ありがとうございます。

○栗山議長

よろしいですか。はい。どうぞ。

○川村委員

もし説明があったらすいません。この意識調査の集計結果は、いつぐらいにどんな形で見ることが出来ますか。

○栗山議長

事務局お願いいたします。

○事務局(石井)

今後の予定になりますが、まず調査をしまして、1回目のその調査の結果を先ほどのコンサルト等にまとめていただくのが、来年の2月頃ですね。そこで1回審議会を開かせていただきまして、皆様のご意見を伺いまして、それを踏まえて、最終的に市民向けの公表を、来年度の5月とか6月とかですね、年度明け早々にですね、最終的なまとまった結果ということで公開したいと考えております。ですから、皆様には来年の2月には案ということで、お示ししたいと考えております。以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。それではこれで、予定の議案を全て終了しましたので、終わりたいと思います。なおですね、議事録につきましては、会長と副会長にご一任いただきたいというふうに思っております皆様よろしいでしょうか。

(全員了承)

はい。ありがとうございます。これで議長の座を降ろさせていただきます。

○事務局(石井)

それでは以上を持ちまして、第2回朝霞市男女平等推進審議会を終了させていただきます。あ

りがとうございました。

閉会